



↑スポークサイドとディスク天面の間にラインを設けることで、シンプルなディスクに立体感を与えたイマドキの5スポークデザインだ



→ディスクには誇らしげにForged（鍛造）の文字が刻印されている。スポーツモデルの最高峰として軽さと強さを突き詰めた



↑ハイインセット&セミコンケーブディスクを選ぶことで、コンケーブよりリム深度を求めた独自のセッティングとなっている



→4シリーズには太いタイヤ（理想はリアに305サイズ）を履かせたい、とあえてハイインセットにしてフロント9.5J、リア11Jを無加工で装着

←ディスクは2パターン。今回はディスク傾斜の浅いセミコンケーブを選択し、アウターリム深度をできるだけ強調するセッティングとした



走りを求める大口径スポーツモデルの到達点

最新BMWとのマッチングを狙った極限のシンプル

鍛造製法によって導き出した最高峰の性能を内に秘め、華飾を排したデザインはどこまでもシンプルで淡麗。ミリ単位でオーダーできる2ピース構造、そして深度が選べる2タイプのフェイスを用意した、最新BMWにこそハマる超本格派5スポークモデルが登場した。



WORK GNOSIS FCV03
F: 9×20+35
R: 11×20+48

WORK GNOSIS FCV03 × BMW420i

問◎ワーク 西日本コールセンター TEL.06・6746・2859 / 東日本コールセンター TEL.048・688・7555
中日本コールセンター TEL.052-777-4512 www.work-wheels.co.jp/
写真◎伊藤吉行 文◎浦野浩之 撮影車両協力◎ルースカースタイル TEL.0826-72-7252

豊富なサイズ設定を活かした最適フィッティングで魅せる。いまでは当たり前となったBMWが国産マルチピースを履く光景。まだまだ欧州モノ全盛期に登場したグノシスは、シンプルで飽きのこないデザインとミリ単位のサイズオーダーで注目を集め、脱定番や限界フィッティングを望むオーナーの間で大ブレイク。そんなグノシスも年々変化していき、いまでは6シリーズを揃えるワーク屈指のブランドへと成長を遂げた。

ルースカースタイルが製作した420iが履くFCVは、F（鍛造）とCV（コンケーブ）を組み合わせたフックシッパシリーズだ。3作目のFCV03は、極限まで無駄を削ぎ落とした5スポークデザインを採用し、スポーツホイールの基本ともいえるシムエットで、シャープ&クリーンなスタイリングに回帰する欧州車、とりわけBMWとの親和性を優先して設計されているのが特徴だ。

シンプルな極地といえるデザイン。一方、それだけで終わらないのがカスタマイズ性の高いグノシスの持ち味だ。国産セダンで名を馳せる同店では、今回のセットアップに際し「4シリーズのスタイリングには太いタイヤが絶対。かつクーベらしさ、深いリムで魅せる」のテーマのもとサイズを決定。一般にはモデルの美しい部分（コンケーブ&2ピース）が強調できるローインセット&ダイープコンケーブを選び、たくなるところだが、今回は深リム感を優先してセミコンケーブディスクとし、

かつインナーリム側を伸ばしてトレッドを広げるために前後ともハイインセットでオーダーしている。こうした選択は低さと走り、スタイリングを突き詰めてきた同店だからこそ、ロジックを突き詰めたマッチングはササガのひと言に尽きると思う。スタイリング面において、ホイール側に選択の余地を多分に残すグノシスは、細分化が進む現代ではその魅力を増すばかり。そのうえBMWに相応しい、軽さと強さを備える鍛造シリーズまで用意するのだから、これは大変な存在だ。



↑極めてシンプルな骨太5スポークデザインを採用。デモカーが装着する20インチはリバースリム、21インチはステップリムとなる